



②謡の個人稽古に励む櫻井さん ③昨年、初舞台にも関わらず牛若丸役を堂々と演じた

櫻井 陽太さん

登米町金谷 Hinata Sakurai

緊張の中での初舞台 稽古と経験積み技術磨く

登米公民館で登米能の体験会のチラシを見て参加したのがきっかけで、母からの勧めもあって小学3年生の時に始めました。まずは基本となる謡を覚えることが何よりも大切なので、毎週水曜日に太郎丸さんに教えてもらっています。

昨年の薪能で初めて舞台上がり、船弁慶の演目で牛若丸役を演じました。とても緊張して失敗もしましたが、見た人から「よかったよ」と声をかけてもらったのがとてもうれしくて、もっとうまくなりたいという気持ちが演じる前よりもさらに強くなりました。

私は、登米謡曲会の雰囲気と、会員のみんで一つの作品をつくり上げる登米能が大好きです。まだまだ一人前には程遠いですが、しっかり受け継いでいけるように、これからも稽古と経験を積み重ねて技術を磨いていきます。



①本番を間近に控え、練習に熱が入る登米小6年で登米謡曲会の櫻井さん ②③④体験学習で能の世界に触れる登米中の生徒たち



夢だった森舞台での舞 肌で感じた魅力と奥深さ

元々は歌舞伎が好きで、東京都にある歌舞伎座の改築に携わった建築家の隈研吾さんが設計した森舞台に以前から興味がありました。入会したのは、5年前に薪能を見た時に、自分もこの舞台に立ちたいと思ったからです。

昨年初めて舞台上で立つことができ、夢をかなえることができました。能の演目の中には、歌舞伎で演じられているものもあります。私にとってはとても興味深く、知れば知るほど能の魅力と奥深さを肌で感じているので、もっと表現力を高めていきたいと思っています。

また、多くの人に登米能を知ってほしいと思い、今年の2月からInstagramを開設しました。ぜひ活動の様子を見ていただき、皆さんからのコメントをお待ちしています。



登米謡曲会 Instagram



及川 舞子さん

迫町山の上 Maiko Oikawa



①仕舞の所作を何度も繰り返して体に染み込ませる ②鮮やかな仕舞を披露した昨年の初舞台

現在、囃子の笛を担当している浦谷町在住の畑岡さんは、「元々、和楽器が好きだったので、祖母の知り合いに紹介してもらって入会しました。登米謡曲会の皆さんは、能が好きなのや興味がある人であれば、住んでいる場所や年齢に関係なく誰でも温かく迎え入れてきました。」

登米謡曲会では、地域の子どもたちに登米能を知ってもらおうと、登米中学校の体験学習に協力。新たな担い手の育成に取り組んでいます。また、魅力ある登米能を演じることで、たくさんの人に見に来てもらい、知ってほしいと、年間を通して稽古を欠かすことはありません。そうした地道な活動が徐々に実を結び、登米地域在住ではない人や学生も入会するようになってきました。

Interview



畑岡 千博さん
(浦谷町)

くれるので、楽しく活動することができています」と笑顔を見せます。

畑岡さんは、大学で琴を弾いていましたが、笛は入会してから。2年ほど稽古して初舞台を経験しました。「初めて舞台上で演奏した時はすごく緊張しましたが、言葉では言い表せないほどの感動がありました」と当時を振り返ります。「たくさんの人に愛してもらえようという演能ができるように、これからも活動していきます。そして、いつかは次の世代へとつないでいきたいですね」と言葉を弾ませ、前を向きます。

次世代に受け継がれる 先人の技と思い

「四番目物」次世代への継承



伝統や郷土を大切にすることを育む

地域の伝統や文化を残してしていくためには、子どもの頃から触れる機会をつくるのが大切です。

登米中学校では、生徒が地域に愛着を持ち、伝統や郷土を大切にすることを育むために登米能の体験学習をしています。体験学習では、登米能の歴史を

学ぶほか、実際使用する衣装を身につけたり、謡を体験したりしています。

これからも多くの生徒に体験してもらい、その世界や関わる人たちの思いを知ってもらうことで、豊かな心を育み、郷土を大切にしようとする大人に成長してくれることを願っています。

Interview



登米中学校
千葉 純子校長